

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

「パインブリッジ新成長国債券プラス」は、このたび第239期の決算を行いました。当ファンドは主としてパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠを通じて、新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債に、またパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡを通じて、新成長国が発行した現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。当作成対象期間もこれに沿った運用を行いました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

## 当作成期の状況

基準価額 (当作成期末)	4,272円
純資産総額 (当作成期末)	5,678百万円
騰落率 (当作成期)	9.1%
分配金合計 (当作成期)	90円

(注) 謄落率は収益分配金(税込み)を再投資したものとみなして計算しています。

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記<お問い合わせ先>ホームページの「基準価額一覧」または「ファンド一覧」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、当ファンドのページにおいて運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。運用報告書(全体版)をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

# 交付運用報告書

## パインブリッジ 新成長国債券プラス <愛称：ブルーオーシャン>

追加型投信／海外／債券

### 第40作成期

(2025年3月22日～2025年9月22日)

第234期 (決算日: 2025年4月21日)

第235期 (決算日: 2025年5月20日)

第236期 (決算日: 2025年6月20日)

第237期 (決算日: 2025年7月22日)

第238期 (決算日: 2025年8月20日)

第239期 (決算日: 2025年9月22日)



パインブリッジ・インベストメント株式会社  
〒100-6813 東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル

お問い合わせ先・・・投資信託担当

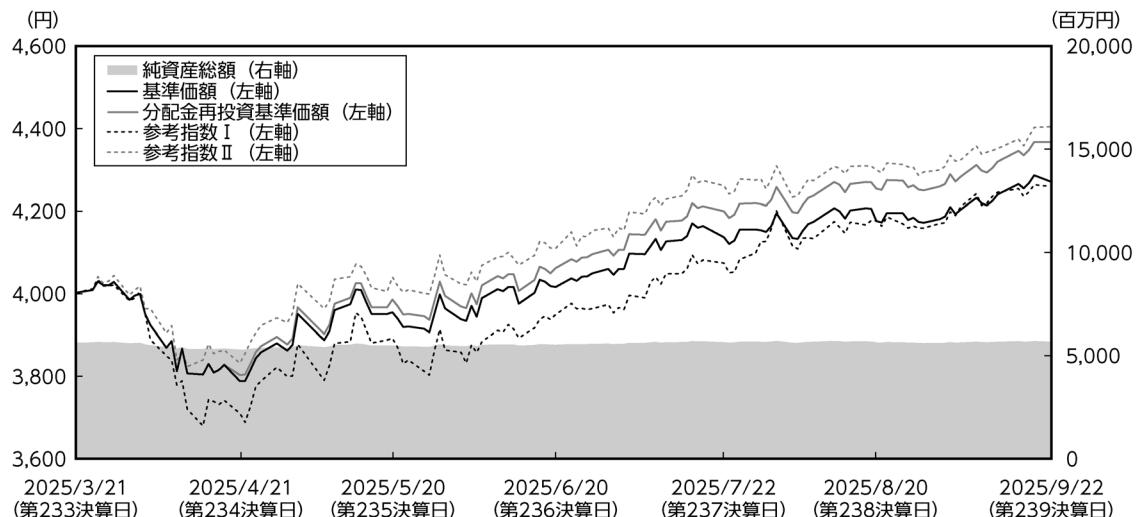
電話番号/03-5208-5858

(受付時間/9:00～17:00 (土、日、祝休日を除く))

ホームページ/<https://www.pinebridge.co.jp/>

## 運用経過 (2025年3月22日～2025年9月22日)

### 基準価額等の推移



第234期首 : 4,003円

第239期末 : 4,272円

(作成対象期間中の既払分配金 : 90円)

騰落率 : 9.1% (分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首の基準価額をもとに指数化しています。

※分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各お客様の損益の状況を示すものではありません。

※参考指数ⅠはJPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド指数（円換算）、参考指数ⅡはJPモルガンGBI-EMブロード・ディバーシファイド指数（円換算）で、基準価額への反映を考慮して前営業日の値を採用しています。作成期首の基準価額をもとに指数化しています。

### 基準価額の主な変動要因

#### <パインブリッジ新成長国債券プラス>

当ファンドの基準価額は上昇しました。投資対象であるパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ、パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡが共に上昇しました。

#### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ>

当ファンドの基準価額は上昇しました。為替市場における円高米国ドル安がややマイナス要因となりましたが、保有する米国ドル建て新成長国債券の価格上昇やインカム収入がプラス要因となりました。

#### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ>

当ファンドの基準価額は上昇しました。保有する現地通貨建て新成長国債券の価格上昇やインカム収入、そして為替市場における円安新成長国通貨高がプラス要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

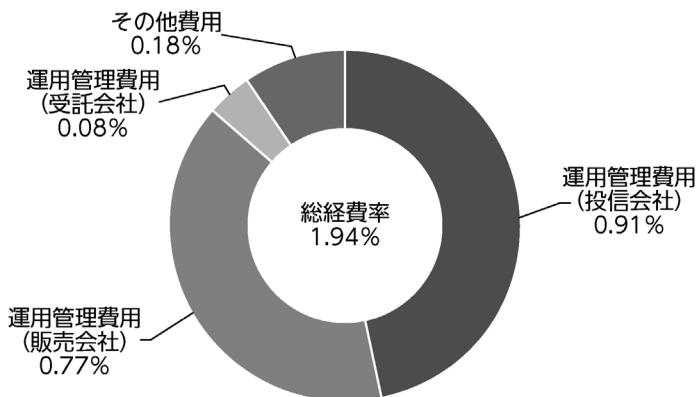
項目	第234期～第239期 (2025.3.22～2025.9.22)		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	36円	0.892%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は4,034円です。
(投信会社)	(19)	(0.463)	委託した資金の運用、交付運用報告書等の作成、ファンドの監査等の対価
(販売会社)	(16)	(0.390)	交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.039)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
その他費用	4	0.091	その他費用=期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(2)	(0.057)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転に要する費用
(その他)	(1)	(0.034)	インドネシアの債券取引による売買益にかかる税金
合計	40円	0.983%	

※期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。また、各項目ごとに円未満は四捨五入しています。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ＜参考情報＞総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除きます。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.94%です。



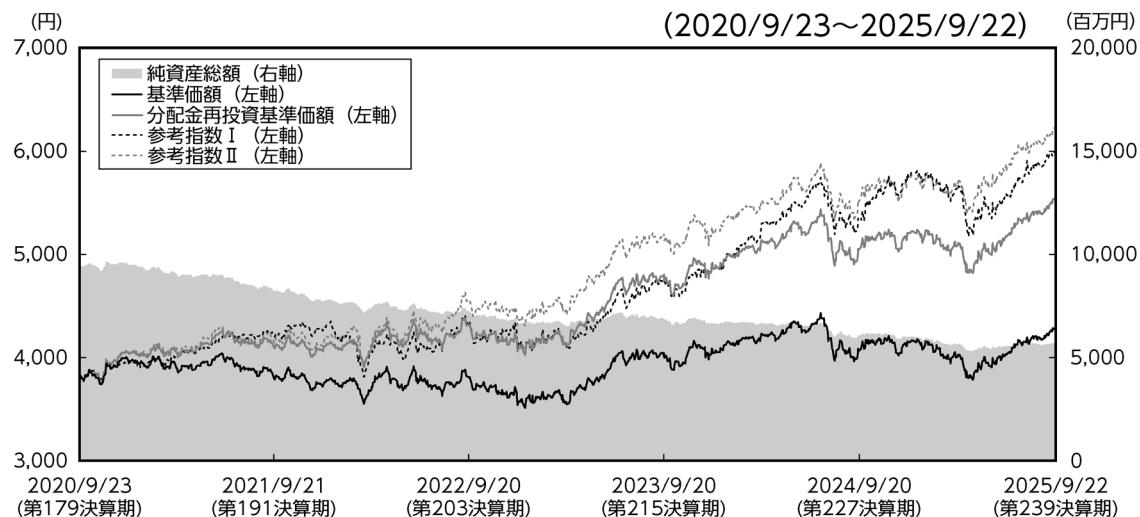
※費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

※各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

※各比率は、年率換算した値です。

※上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。2020年9月23日の基準価額をもとに指数化しています。

※分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各お客様の損益の状況を示すものではありません。

※参考指標 I はJPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド指数（円換算）、参考指標 II はJPモルガンGBI-EMブロード・ディバーシファイド指数（円換算）で、基準価額への反映を考慮して前営業日の値を採用しています。2020年9月23日の基準価額をもとに指数化しています。

※参考指標は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指標として記載しています。

	2020/9/23 決算日	2021/9/21 決算日	2022/9/20 決算日	2023/9/20 決算日	2024/9/20 決算日	2025/9/22 決算日
基準価額 (円)	3,829	3,795	3,812	4,027	4,065	4,272
期間分配金合計（税込み） (円)	—	300	180	180	180	180
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	7.0	5.4	10.8	5.4	9.8
参考指標 I の騰落率 (%)	—	10.0	2.5	9.8	12.4	12.4
参考指標 II の騰落率 (%)	—	8.3	9.6	13.6	6.8	13.0
純資産総額 (百万円)	9,499	8,191	7,240	6,877	6,047	5,678

### ●参考指標について

参考指標 I のJPモルガンEMBIグローバル・ディバーシファイド指数は、JPモルガン社が公表するエマージング諸国の国債を中心とした債券の合成パフォーマンスを表す指標です。参考指標 II のJPモルガンGBI-EMブロード・ディバーシファイド指数は、JPモルガン社が公表するエマージング諸国の政府および政府関係機関等が自国通貨建てで発行する債券の合成パフォーマンスを表す指標です。

## 投資環境について

当造成期の米国ドル建て新成長国債券市場、現地通貨建て新成長国債券市場は共に上昇しました。造成期首より4月上旬にかけては軟調に始まりました。主な背景としては、トランプ政権の想定より厳しい相互関税が新成長国に与える影響と米国優先主義の強まり、そして米大統領のFRB(米連邦準備制度理事会)議長批判を受けた米国資産離れの加速が挙げられ、米国金利の上昇を伴うリスク回避地合いが強まりました。その後は相互関税の一部発動の時限的停止やFRB議長の解任発言の撤回等が安心材料となり、両市場は反発に転じました。5月に入ると米国と中国の時限的な関税大幅引き下げ合意が貿易摩擦懸念を後退させると、米国金利の低下も追い風となって市場は一段高となりました。8月以降から造成期末にかけては、米国雇用指標の鈍化に伴う追加利下げ期待を背景に米国金利が一段と低下し、造成期末にかけての両市場を下支えしました。国別の指数では、南アフリカやブラジル等が上昇する一方、チェコ等がやや下落しました。

当造成期の為替市場はやや円高米国ドル安となる一方、円安新成長国通貨高となりました。日本との金利差は日銀の追加利上げ観測を反映して共に縮小し、対米国ドルは金利差縮小に準じた動きとなりました。しかし対新成長国通貨は金利差以上に新成長国通貨への需要が旺盛となりました。新成長国通貨の騰落率では、チェコ・コルナやメキシコ・ペソ等が上昇する一方、トルコ・リラやエジプト・ポンド等が下落しました。

## ポートフォリオについて

### <パインブリッジ新成長国債券プラス>

当ファンドは、引き続き相対的に現地通貨建て新成長国債市場の投資妙味が高いと判断した結果、マザーファンドⅡの投資比率を高めに維持しています。造成期末現在では、対純資産総額比率でそれぞれマザーファンドⅠを19.8%、マザーファンドⅡを80.3%組入れています。

### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ>

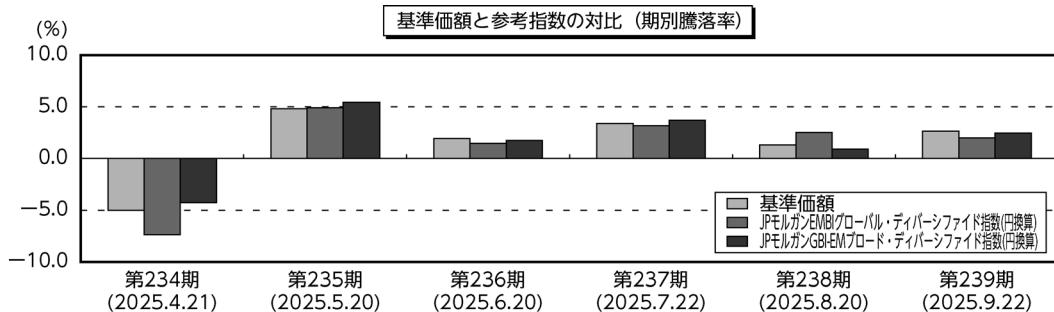
当ファンドは発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性などの各種分析に基づき、割安と判断される米国ドル建て新成長国債への分散投資を図りました。

### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ>

当ファンドは発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性などの各種分析に基づき、割安と判断される現地通貨建て新成長国債への分散投資を図りました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額（分配金再投資基準価額）と参考指数の騰落率の対比です。



## 分配金について

当成期の収益分配金につきましては、期中に受取りましたインカム収入を中心に、第234期～第239期それぞれ15円（元本1万口当たり課税前）とさせていただきました。なお、分配に充てなかった収益につきましては、信託財産中に留保し、元本部分と同一の運用を行うことといたします。

### ●分配原資の内訳

（単位：円・%、1万口当たり、税引前）

項目	第234期	第235期	第236期	第237期	第238期	第239期
	2025年3月22日～ 2025年4月21日	2025年4月22日～ 2025年5月20日	2025年5月21日～ 2025年6月20日	2025年6月21日～ 2025年7月22日	2025年7月23日～ 2025年8月20日	2025年8月21日～ 2025年9月22日
当期分配金 (対基準価額比率)	15 0.394	15 0.378	15 0.372	15 0.361	15 0.358	15 0.350
当期の収益	15	15	15	15	15	15
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	205	210	219	236	240	249

\*「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」と「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から、それぞれ当期の分配に充当した額の合計を表示しています。なお、「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

\*当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの收益率とは異なります。

## 今後の市況見通しと運用方針

### 今後の市況見通し

9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）では市場予想通りに0.25%の予防的な追加利下げが再開されました。FRBは鈍化の兆しを見せる労働市場と粘着性を示すインフレ率の狭間で難しい舵取りを迫られていますが、今回の利下げからはインフレよりも雇用減速の回避を優先する姿勢が読み取れます。一方で米国経済は企業の限定的な人員整理を背景に、底堅い個人消費が下支えしています。引き続き米国の景気動向には注視が必要ですが、FRBが機動的な利下げ姿勢を示していることはマーケットにとって大きな安心材料です。一方、中国では米国との貿易摩擦懸念こそ後退しましたが、国内経済回復に向けた政策対応が待たれています。

こうした世界経済の下、新成長国においては欧米金融政策の緩和方針がサポート役となっています。米国の関税引き上げの直接的影響を受ける中国や中南米を始めとした新成長国の経済動向には当面留意が必要ですが、米国による制裁関税を上乗せされたとしても対米依存度が相対的に低く、内需主導型の強みを活かせるインド等が引き続き注目されます。今後も国別選択の精査がより重要性を増すものと想定されますが、新成長国債券市場は相対的に高い利回りが維持され、依然として魅力的な投資対象であると考えています。

### 運用方針

#### <パインブリッジ新成長国債券プラス>

今後とも相対的に投資妙味の高い現地通貨建て新成長国債に投資するマザーファンドⅡへの投資比率を、米国ドル建て／ユーロ建て新成長国債に投資するマザーファンドⅠよりも高めに維持する方針です。

#### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ>

引き続き、主として新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債に投資し、高水準の利子収入の確保を目指して運用します。ポートフォリオについては、発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。また、新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。

#### <パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ>

引き続き、主として新成長国が発行した現地通貨建て国債等に投資し、高水準の利子収入の確保を目指して運用します。ポートフォリオについては、発行国の財務力、経済成長率などのファンダメンタルズ要因と、個別銘柄の直接利回り、最終利回り、バリュエーション、流動性、発行条件などの各種分析に基づき、割安と判断される銘柄を選定して投資します。また、新成長国の分散を図り、カントリーリスクをコントロールします。

## お知らせ

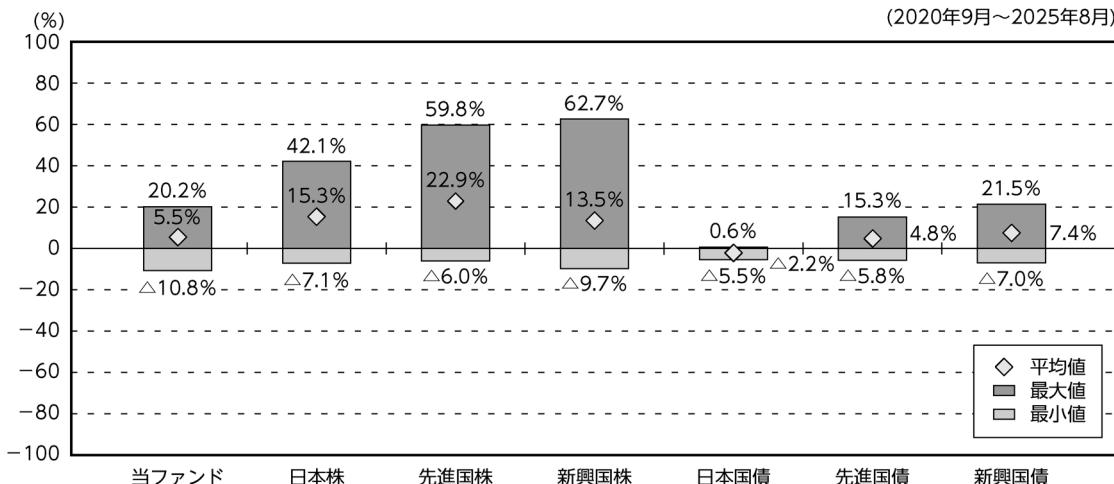
投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、所要の変更を行っております。

2023年11月に「投資信託及び投資法人に関する法律」の一部改正が行われ、交付運用報告書については書面交付を原則としていた規定が変更されました。本件により、デジタル化の推進を通じて顧客の利便性向上を図るとともに、ペーパーレス化による地球環境の保全など、サステナビリティへの貢献に繋がるものと捉えております。今後も顧客本位の業務運営を確保しつつ、電磁的方法での情報提供を進めてまいります。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	原則として無期限です。	
運用方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主としてパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠを通じて、新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債に、またパインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡを通じて、新成長国が発行した現地通貨建ての国債等に投資することにより、安定した収益の確保を図るとともに、中長期的に信託財産の着実な成長を目指します。</li> <li>・マザーファンドの運用にあたっては、パインブリッジ・インベストメント・ヨーロッパ・リミテッド (PineBridge Investments Europe Ltd.) に外貨建て資産の運用の指図に関する権限を委託します。</li> </ul>	
主要投資対象	パインブリッジ新成長国債券プラス	「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ」および「パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ」を主要投資対象とします。
	パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ	新成長国が発行した米国ドル建ておよびユーロ建ての国債を主要投資対象とします。
	パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ	新成長国が発行した現地通貨建ての国債、あるいはそれと同等の価値を有する現地通貨建て国債連動債（フレジット・リンク・ノート）を主要投資対象とします。
運用方法	パインブリッジ新成長国債券プラス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式への実質投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により取得する場合に限り、信託財産の純資産総額の10%以内とします。</li> <li>・外貨建て資産への実質投資割合には制限を設けません。</li> </ul>
	パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅠ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式への投資割合は、転換社債の転換、ならびに転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により取得した株券に限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</li> <li>・外貨建て資産への投資割合には、制限を設けません。</li> </ul>
	パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡ	
分配方針	毎月1回（原則として20日）決算を行い、配当等収益および売買益を中心に、基準価額の水準、市況動向、運用状況等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わない場合もあります。	

## <参考情報>代表的な資産クラスとの騰落率の比較



\*すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*上記グラフは、2020年9月～2025年8月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*上記の騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### ●各資産クラスの指標

日本株：東証株価指数（TOPIX）配当込み

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス（配当込み・円ベース）

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み・円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（ヘッジなし・円ベース）

\*海外の指標は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

東証株価指数（TOPIX）配当込みは、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」という。）の知的財産であり、指標の算出、指標値の公表、利用など同指標に関するすべての権利は、J P X が有しています。

MSCIコクサイ・インデックス（配当込み・円ベース）およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み・円ベース）は、MSCI Inc.が開発した指標で、同指標に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社が作成している指標で、同指標に関する知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社に帰属しています。また、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社は、同指標の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより算出および公表されている債券指標であり、同指標に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド（ヘッジなし・円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出・公表する指標で、同指標に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容（2025年9月22日現在）

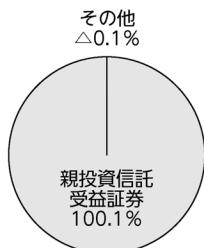
#### ●組入銘柄

(組入銘柄数：2銘柄)

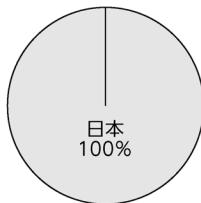
銘 柄 名	投資比率(%)
パインブリッジ新成長国債券マザーファンド I	19.8
パインブリッジ新成長国債券マザーファンド II	80.3

※比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

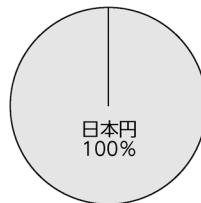
#### ●資産別配分



#### ●国別配分



#### ●通貨別配分



※比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

## 純資産等

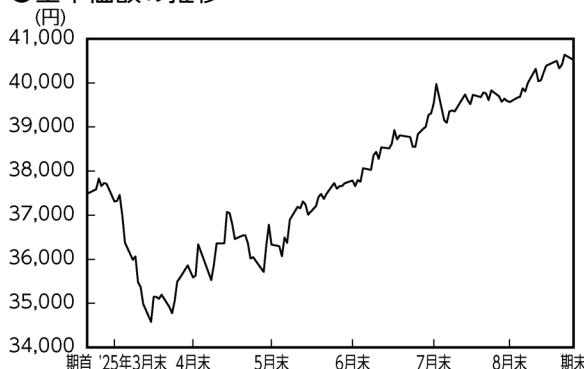
項 目	第234期末	第235期末	第236期末	第237期末	第238期末	第239期末
	2025年4月21日	2025年5月20日	2025年6月20日	2025年7月22日	2025年8月20日	2025年9月22日
純資産総額	5,290,573,291円	5,493,355,784円	5,526,821,200円	5,650,870,910円	5,636,762,480円	5,678,468,572円
受益権総口数	13,965,777,528口	13,887,934,148口	13,760,993,197口	13,658,308,400口	13,496,912,059口	13,291,487,295口
1万口当たり基準価額	3,788円	3,955円	4,016円	4,137円	4,176円	4,272円

※当作成期間（第234期～第239期）中における追加設定元本額は85,175,013円、同解約元本額は856,745,476円です。

## 組入ファンドの概要

パインブリッジ新成長国債券マザーファンド I の組入資産の内容（2025年9月22日現在）

### ●基準価額の推移



### ●1万口当たりの費用明細

項目	
その他費用	37円
(保管費用)	(37)
合 計	37円

※基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分、1万口当たりの費用明細は、組入マザーファンドの直近の決算日現在のものです。なお、費用項目および計算方法については2ページの1万口当たりの費用明細をご参照ください。

※運用経過については、運用報告書（全体版）をご参照ください。

### ●組入上位銘柄

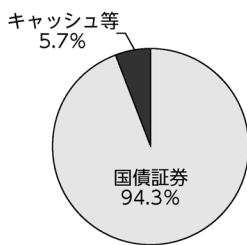
(組入銘柄数：50銘柄)

銘柄名	資産	国	通貨	比率(%)
SAUDI INTERNATIONAL BOND	国債証券	サウジアラビア	米国ドル	3.0
UNITED MEXICAN STATES	国債証券	メキシコ	米国ドル	2.8
REPUBLIC OF INDONESIA	国債証券	インドネシア	米国ドル	2.8
REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	国債証券	南アフリカ	米国ドル	2.8
REPUBLIC OF TURKEY	国債証券	トルコ	米国ドル	2.8
REPUBLIC OF KAZAKHSTAN	国債証券	カザフスタン	米国ドル	2.4
ARAB REPUBLIC OF EGYPT	国債証券	エジプト	米国ドル	2.4
REPUBLIC OF NIGERIA	国債証券	ナイジェリア	米国ドル	2.3
ROMANIA	国債証券	ルーマニア	米国ドル	2.3
REPUBLIC OF COSTA RICA	国債証券	コスタリカ	米国ドル	2.3

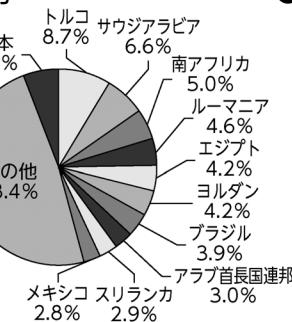
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

※全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

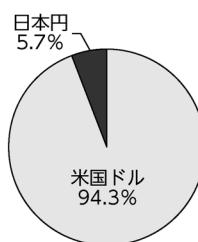
### ●資産別配分



### ●国別配分



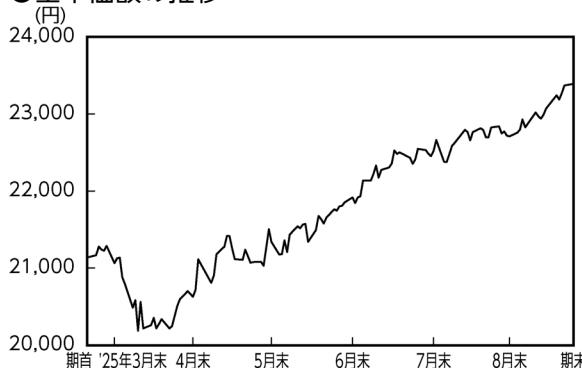
### ●通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

## パインブリッジ新成長国債券マザーファンドⅡの組入資産の内容（2025年9月22日現在）

### ●基準価額の推移



### ●1万口当たりの費用明細

項目	
その他費用 (保管費用)	20円
(その他)	(10)
合 計	(9)
	20円

※基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分、1万口当たりの費用明細は、組入マザーファンドの直近の決算日現在のものです。なお、費用項目および計算方法については2ページの1万口当たりの費用明細をご参照ください。

※運用経過については、運用報告書（全体版）をご参照ください。

### ●組入上位銘柄

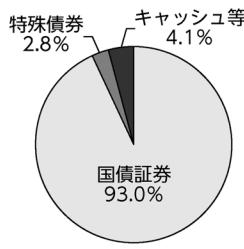
（組入銘柄数：47銘柄）

銘柄名	資産	国	通貨	比率(%)
REPUBLIC OF SOUTH AFRICA	国債証券	南アフリカ	南アフリカ・ランド	4.2
EGYPT GOVERNMENT BOND	国債証券	エジプト	エジプト・ポンド	4.0
THAILAND GOVERNMENT	国債証券	タイ	タイ・バーツ	4.0
INDIA GOVERNMENT BOND	国債証券	インド	インド・ルピー	3.4
INDONESIA GOVERNMENT	国債証券	インドネシア	インドネシア・ルピア	3.3
REPUBLIC OF BRAZIL	国債証券	ブラジル	ブラジル・レアル	3.0
HUNGARY GOVERNMENT BOND	国債証券	ハンガリー	ハンガリー・フォリント	2.9
CHINA DEVELOPMENT BANK	特殊債券	中国	中国人民元	2.8
BONOS TESORERIA PESOS	国債証券	チリ	チリ・ペソ	2.7
HUNGARY GOVERNMENT BOND	国債証券	ハンガリー	ハンガリー・フォリント	2.6

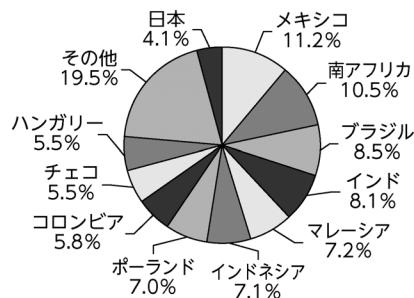
※比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

※全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

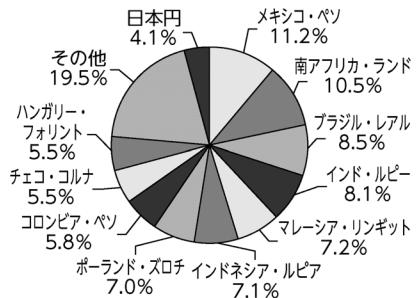
### ●資産別配分



### ●国別配分



### ●通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。